

平成29年度 第1回 倉吉市地域学校推進協議会の概要

1 目的

「地域学校委員会」の意義やめざすもの等について理解を深め、学校と地域の連携により地域の次世代育成を行うことができるようにする。

2 実施日 6月17日(土) 10:00~12:00

3 主催 倉吉市教育委員会学校教育課

4 対象者 各小中学校地域学校委員会会長、新委員、新任教頭、社会教育委員等

5 内容

(1) 説明

- ・「地域学校委員会」について
- ・倉吉市における学校と地域づくりについて
- ・各地区「教育を考える会」について

(2) 講演

「学校・家庭・地域(企業・NPO等)・行政の連携・協働による教育の充実
～地域とともにある学校づくりをめざして～」

(株)キラキラ雲南

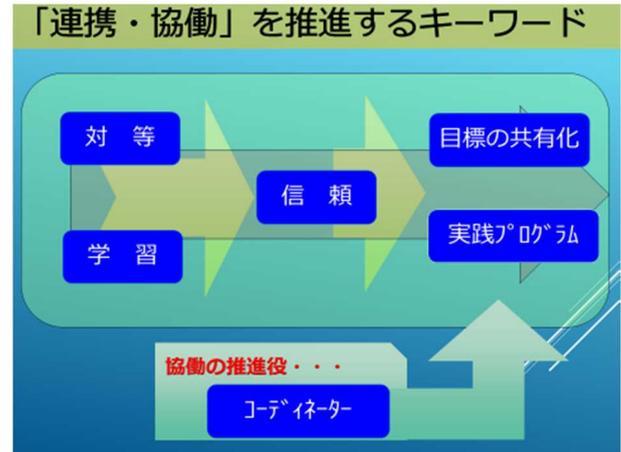
常任取締役 土江 博昭 氏 (コミュニティ・スクール推進員)

○平成28年12月まで雲南市教育長を務めておられた経験をもとに、地域とともにある学校づくりについてご講演いただいた。



- ・自立した社会性のある大人への成長をめざして課題解決型人材の育成をしていくことが持続可能なまちづくりを実現する基盤となる。
- ・学校教育と社会教育が連携・協働しながら、そのめざすことを共有し、実現を図っていくことが大切である。「チーム学校」から「チーム地域」へ。「開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ。
- ・学校と地域が「Win-Win」の関係にならなければならない。学校支援だけでは「Win-Win」にならない。協働してやるのが大切である。自分たちも参画し、責任をもちながらしっかり役割を果たしていく。それが協働であり、教育を充実させることになる。

- ・今の子どもたちにどういう力をつけていくかという目標の共有化と学校や地域でどう子どもを育てていくのかという発達段階にあわせたプログラム。さらに誰がコーディネートしていくのかという仕組み・仕掛けづくりが必要である。
- ・キーワードはパートナー。学校、家庭、地域、行政が信頼関係で結ばれ、協働して考えていかなければならない。



(3) 参加者の感想

- ・「開かれた学校」から「地域と一体になった学校」へと、さらに推進する必要性を感じた。(学校の管理職)
- ・保幼小中高をつなぐキャリア教育プログラムの作成は必要だと思います。地域全体で取り組む教育は素晴らしいと感じました。(地域住民)
- ・講演の中でおっしゃった公民館は公民館の思いでのプログラム、学校は学校の思いでのプログラムとなっている現状のように思います。相互で何が必要なのか総合的に考え、同じ目標に向かったプログラム策定につなげられればよいのですが……。やはり行政がしっかりと関わることの重要性を感じました。(保護者)
- ・市全体でプログラムを組み、どんな子どもを育てたいかはっきりしている。学校・地域・行政が一体となって子どもを育てることが大切だと感じた。「チーム地域」として取り組むことの大切さを感じた。(学校の管理職)



- ・土江先生のしっかりした理念と先進的な実践力に勇気づけられました。キーワードの「連携・協働」をもっと進める必要があると思います。(チーム学校→チーム地域へ) 保幼小中高という考え方を学びたい。

(社会教育委員)